



絆

毎年12月12日に発表される「今年の漢字」が決定しました。これは、日本漢字能力検定協会が、漢字への関心を深めることや漢字が持つ意義を伝える活動の一環として、その年の世相を表す漢字を公募し、最も応募数の多かった漢字を決めるものです。

今年は、東日本大震災や紀伊半島豪雨などの大規模災害で、家族や仲間との絆の大切さをあらためて知ったことなどから「絆」が選ばれました。ちなみに、2位「災」、3位「震」、以下「波」「助」「復」「協」「支」「命」「力」の順となっています。

「今年の漢字」は、阪神淡路大震災が起きた平成7年度から始まりました。過去には、「食」：O157や狂牛病、「金」：シドニーオリンピック（高橋尚子選手の女子マラソン金メダル）、「虎」：阪神タイガースリーグ優勝、「命」：いじめによる子どもの自殺などがありました。

震	食	倒	毒	末	金	戦	帰	虎	災	愛	命	偽	変	新	暑
H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22

ところで、「絆」という漢字の意味を知っていますか。インターネットで調べてみると、いろいろな説がありました。その中から2つ紹介します。（実際に調べてみるとおもしろいですよ）

時代劇などで、「丁半ばくち」がありますよね。さいころを2つ振って、その出目の合計が偶数か奇数かを当てるものです。そこでは、偶数は「丁」、奇数は「半」といいます。つまり、奇数は「2で割れない」それが転じて、「2つに裂くことができない」という意味を持つようになったのだと思います。「糸」はつなぐ物。「半」は分けることができないこと。それが合わさって「絆」となったのだと・・・。

「絆」は、もともと牛馬などの動物をつなぎとめておく綱（つな）という意味です。これが転じて、現在では、「兄弟の絆」や「夫婦の絆」などの断ちがたい情愛の意味に使われています。漢字右側（「つくり」の部分）の「半」は、「半分」の意味を表しているわけではありません。もともとは、車などをひく（ひっぱる）という意味の「挽」（音読みでバン）を、同音の「半」（ハン・バン）に置き換えて作った字です。「強い絆で結ばれている」はずが「半分の糸の強さしかない」のではありませんから、ご心配なく。

「絆」は、詫間中学校にとっても大切な一文字です。この1年間を振り返ると、新しい学級の仲間づくりのためにという目的で春に移行した体育祭では、短い練習時間や台風接近による雨天順延にもかかわらず、新しい仲間との絆を築きあげてくれました。2年ぶりにマリンウェーブで開催した合唱コンクールでは、その絆がより強くなり、美しいハーモニーとなって会場に響き渡りました。また、今年から始めた「イ～なの日」の取り組みからも、友達との絆を感じ取ることができました。さらに、生徒会が中心となって取り組んでいるあいさつ運動やボランティア活動、ふれあい集会では、全校生徒の絆も深まりました。

平成23年は間もなく終わりますが、新しい年もより一層“チーム詫間”の絆が深まることを祈ります。

節電

前年度と比較すると、7月から5か月連続で減少しています。しかし、9月16.0%減、10月14.5%減と、前年度10%減の目標を達成できましたが、11月は減少したものの3.6%にとどまりました。ちなみに、4月からのトータルでは、9.3%減と目標達成まであと一歩です。こまめな節電を心がけましょう。

～目標達成まであと一歩～

